

## 日本の大学はこれからどのように変わるのか

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 先週は、大学では1つの授業が90分間の単位で行われ、それが前期・後期の各学期に15回繰り返され、2単位が取れるというお話をさせていただきました。そして、90分間の授業に対して90分以上の予習と90分以上の復習をすることが大事であるというお話もいたしました。今日は、その続きとして、「大学はこれからどのように変わるのか」というお話をさせていただきます。
3. 大学は今後どんどん変わっていくと思います。この前もお話させていただきましたが、早稲田大学では授業の半分以上を英語で行うという方針を打ち出しました。もちろん初めからすべての授業を英語で行う学部もありますが、一般の学部でも半分以上の授業は英語で行うようにするとのことです。

他大学でも、英語の授業だけでなく、ほかの科目の授業も英語で行うようにし、できれば早稲田大学と同様に半分以上の授業を英語で行うという方針を出してきたところがたくさんあります。東京大学はもちろん、京都大学、神戸大学などいろいろな大学で授業はなるべく英語でやろうという方針を出し、5年後・10年後の実現を目指して盛んに動いています。
4. また、日本では18歳以下の人口がどんどん減っていて、10年・20年後には今の人口の何分の1かになってしまおうとも言われています。大学としては、これからの大学経営の在り方として、外国の優秀な方に日本に留学していただき、日本の学生と外国の学生とが切磋琢磨し合いながら学力を高めるようにしようと考えているところが多いです。そのため、今後は日本人だけでなく、外国人と一緒に大学生活を送ることが予想されます。ですから、大切なことは外国の方々と一緒に勉強するのがこれからの大学だということを認識することです。
5. もっと言うと、日本では非常に少ないですが、外国では25歳以上の方、つまり社会人の方がたくさん大学で勉強しています。ですから、日本でもたくさんの社会人の方々に大学に入学していただき、高校を卒業したばかりの18歳の方々と一緒に勉強するのが、これからの大学の在り方です。

特にヨーロッパでは、大学生というと25歳以上の方が多いのが普通で、28歳や30歳、あるいは60歳や70歳になってから大学に入学なさる方もたくさんいます。また、1つの学部で勉強してしばらく経ってから、2つ目の学部、さらには3つ目の学部、4つ目の学部に入學して、領域を広げて勉強する方もたくさんいます。さらに、大学院の修士課程で1つの科目の修士を取った上で、別の大学院の修士課程で2つ目、3つ目、4つ目の科目の修士を取る方も珍しくありません。大学

を卒業してそのまま大学院に進学するのではなく、しばらくしてから、例えば30歳を過ぎてから1つ目の大学院に入り、40歳あるいは50歳になってから2つ目の大学院に入り、60歳・70歳になって大学や大学院に入り直して勉強するのが普通です。

6. 私の知り合いの方の中には、70歳になったから大学院の博士課程に入って勉強しようと考えて一所懸命に準備なさっている方がいます。60歳になったのもう一度大学や大学院に行こうと考えている人もいます。これらは日本人の方々です。

このような方々は日本でも増えてきました。外国では、これまでの日本のように高校を卒業したらすぐに大学等に進学する方ばかりではありません。60歳・70歳になってから大学や大学院に入る方々、あるいは、高等学校に入り直す方も山ほどいます。また、単位にはあまりなりません、大学の授業の一端を簡単に学ぶことのできるコミュニティ・カレッジも流行っています。

7. つまり、日本では社会人が大学に行って学ぶことは少ないですが、外国では非常に多いのです。とりわけアメリカでは、1つの大学に5万人から10万人の社会人が在籍しているところがざらにあります。

8. 次に、日本の大学と外国の大学との違いをお話します。日本の大学は評価がとても曖昧というか、簡単です。大学に18歳で入学して22歳で卒業できないと、つまり、留年などして4年間で卒業できないと気の毒だということで、出席さえしていれば単位を与えて進級させたり、卒業させたりするなど、日本の大学の先生の多くは寛容です。一方、外国の大学の先生方はそういう点においては厳格です。自身が命懸けで勉強した学問体系を教えるのに妥協はしません。例えば、その科目の単位が取れなければ次の学年に進級できないという必修科目というものがあります。その必修科目が60点以下であるときは留年になります。学生がどんなに困ろうとも関係なく、単位が取れるまで何年でも留年となります。一方で、どんなに留年しても退学にはしないという制度がありますので、1つの大学に5年も10年もいてその科目を勉強する学生すらいます。

9. 日本の大学のように進路のこと・就職のことで気の毒だからあまり勉強していなくても出席だけしていれば進級・卒業させるのがよいのか、外国の大学のように就職のことなどお構いなしにある一定のレベルにならないと進級・卒業させないのがよいのか、これも1つの決断だと思います。日本の大学はこれからどのようになるのか、皆さんにもぜひ注目していただきたいと思います。おそらく厳格な評価になるのではないかというのが私の考えです。入るのは簡単だが出るのは大変というのが、アメリカやヨーロッパを初めとする世界中の大学です。ですから、日本の大学もそろそろそのようになってくるのかもしれませんが。

10. 年齢や性別、今の学力にあまり関係なく誰でも入れるのが大学です。入るのが難しくない大学もたくさんあります。ただ、出るのは大変で、そこで命懸けで勉強して卒業する、これも1つの考えです。放送をお聴きの皆さんにも、これからのことをぜひお考えいただければと思います。